



* 三月に (AU MOIS DE MARS)

弥生三月、強風、大雨、高波、雪崩、、、突然の強い風に、向かい側の2本のポプラが深くお辞儀をするように傾き、一瞬の吹雪も15分と続かず、黒雲が切れて強い陽の光、と変化の激しい天気、春が近いことを感じます。日も次第に長くなり、先日までは夕方5時頃には暗くなったものが、今はもう7時頃迄明るくなって、年甲斐もなく何かワクワクと嬉しい気が致します。“三月サクラの咲く頃は、、、あ、ポカポカ陽気のせいですナ、、、”、その昔ラジオで“日曜娯楽版”という番組があって、その中のミキ・トリローの“冗談音楽”で唄われていた曲を、何故か急に思い出しました。今冬は朝夕が凍ることも稀で、日中も穏やかな日が続きました。こちらの新聞にも《 non-hiver 》(冬無し)との見出しで「この冬は史上最も暖かく、平均気温が8℃」(Get hiver est le plus chaud de notre histoire. Avec une moyenne de 8℃!)と書かれていました。ピ、ピ、ピ、、、ツピ、ツピ、ツピ、、、ピー、ピー、ピー、、、普段に聞かれるカラス(le corbeau)やカササギ(lapie)のカア、カア、ガチャ、ガチャと騒がしい声とは違った可愛らしい小鳥達のさえずりにも春が感じられます。12月に既に満開となった南仏のミモザ(le mimosa)、1月に咲き始めた黄水仙(la jonquille)、そして山吹(la kerrie)、クロッカス(le crocus)、野畑にキンポウゲ(le bouton-d' or)、家々に連翹(le forsythia)、、、と、いつものように黄色い花で今年も春が始まったようです。日本の新聞にも「神奈川県二宮町の吾妻山公園では、暖冬の影響で平年よりも早く1月中旬に菜の花(les fleurs de colza)が満開」との記事と写真が載っていました。3月20日は「春分の日」(l' équinoxe de printemps)、こちらは祭日扱いではありませんが、春を喜びます。

* 駅弁 (BENTO DE LA GARE)

先信で一寸触れたパリで販売する「駅弁」のこと、好奇心と懐かしさに駆られてパリ・リヨン駅へ行きました。用事を済ませた帰りに寄ったのが16時過ぎ、TGV列車発着のホール2(Hall 2)の中程に「駅弁」(EKIBEN)というキオスクがあり、日本人の店員さんが3人笑顔で対応してました。売れ行きは大変によく、毎日完売とのこと、私もやっと残っていた“幕の内弁当”を2個買うことが出来ました。店員さんが口を揃えて云うには、やはり日本人が懐



かしそうに、嬉しそうに買って下さるのが嬉しい、外人客の質問に答えたり、説明したりするのは、大変疲れるとのことでした。パリ・リヨン弁当(15euros)、幕の内弁当(15euros)、おもてなし弁当(13euros)、助六弁当(8euros)、おにぎり弁当(8euros)の5種類で、今のところ4月末日まで毎日販売するそうです。家に帰って試食しましたら、包装と容器が立派過ぎて、捨てるのが惜しい位、

味は淡泊、薄味で健康志向、海老天の揚げ油が匂う、米飯が今一、あえて点をつければ 70 点といったところでしょうか。駅弁誕生は 1885 年に宇都宮駅で販売のおにぎり弁当、駅弁の定番「幕の内弁当」は 1889 年姫路駅で販売されたものが最初、、、ということを知りました。

* 夏時間 (L' HEURE D' ETE)

3 月 27 日 (日曜日) 午前 2 時に時計を 1 時間進ませて 3 時にして下さい。夏時間のスタートです。10 月 30 日 (日) に冬時間に戻る迄続きますが、日本との時差は 7 時間となり、こちらの朝の 8 時は日本では同じ日の 15 時、午後 3 時となります。

Changement d'heure
passage à l'heure d'été dimanche 27 mars 2016



+1 heure

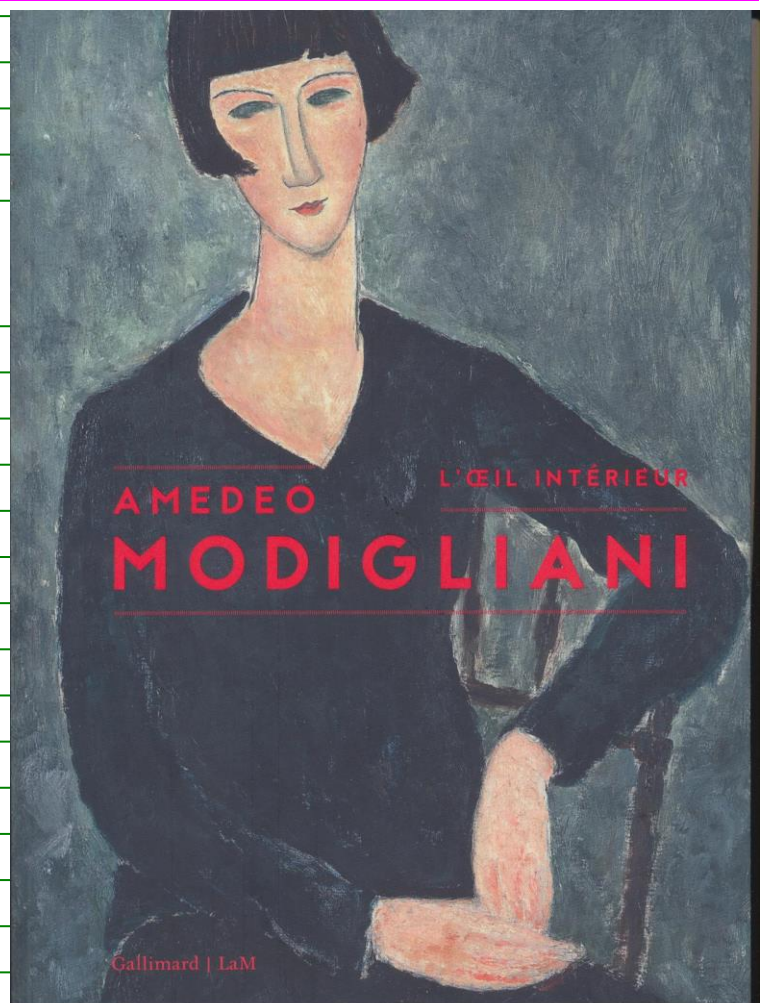
à 2 heures du matin
il faudra ajouter une heure,
il sera alors 3 heures.

Infographie © Direction de l'information légale et administrative (Premier ministre), 2016.

* モジリアニ“内心の眼差し”展

(Expo. « AMEDEO MODIGLIANI, l' oeil intérieur »)

アメデオ・モジリアニ(1884-1920)は、短い生涯を強烈な光芒と共に生きた天才的な画家であり、Modi と呼ばれましたが、それはフランス語の Maudit (モディ)「呪われた」に通じていたと云えましょう。病弱なアメデオは 14 才で腸チフス(la fièvre typhoïde)に罹り、幻覚に光や色の閃きを見て絵描きになろうと決心、母親はイタリア印象派画家のミケーリのアトリエに行かせました。16 才の時に肋膜炎(la pleurésie)に倒れた彼を母親は気候の良い南イタリアへ連れて行き、ナポリ、ローマで美術館、画廊や教会を巡り、18 才の時にはフローレンスで美術学校に登録して絵画を習い、1906 年 22 才でパリに到着、都会らしい雰囲気、光、音に魅かれ、ルーブル美術館で古代エジプトやアフリカの未開の芸術、ギメ美術館でクメールの芸術に出会って刺激を受け、その影響は、後の作品の形、線、図柄、顔、眼、等の基礎を作り上げたようです。人々が印象派の作



品を争って手に入れていた時代であり、モネ、ドガ、マチス、ピカソ、ロダン、等に会う機会も多く、パリで生活する事を決め、モンマルトルに住んだモディは自分の作品を展示販売してみましたが、全く売れず、

貧乏のどん底に落ち込みました。しかし1913年にアンデパンダン展に出した“ユダヤの女”(la Juive(1907))という作品が売れ、彫刻家のブランクージに習って彫刻もやり、1912年サロン・ドートンヌ展に出品の“女性の頭”(Tête de femme(1912))等の7点は報道陣の注目を浴びました。こうして少しは世間に名前が知られるようになりましたが、酒と女、麻薬、病気、で苦悩は絶えることなく続けました。その後区画整理でモンマルトルを追われた芸術家達はモンパルナスに集まる様になりましたが、1914年にはドイツの宣戦布告で第一次大戦が始まり、1916年頃からは“光の都”パリも全てが悲しく暗くなっていきました。カフェの“ラ・ロトンド”には、キスリング、彫刻のザッキン、詩のアポリネール達が兵隊用の大きな外套を纏って次々にやって来るので、自分も軍隊に志願しましたが、結核に罹っているからと落とされてしまいました。体力も無く売れない彫刻は止め、もっぱら肖像画を描き、裸婦も描き出しました。1917年12月、画廊のベルテ・ウェイルによる展覧会に“座った裸婦”(Femme nue assise(1916))等を出展したところ、初日にベルテと警察署に召喚され、良俗秩序を乱す、との理由から、裸婦の絵は全て取り外す様に命じられ、一大スキャンダルとなりました。「何がいけないと云うの?」「恥毛が露わだから、、、」(《 Mais qu' ont-ils donc ces nus ? 》《 Ces nus ! Ils ont des poils 》) 咳が止ることなく、衰弱したモディと、同棲し、妊娠もしていたジャンヌを、面倒見のよい友人で詩人のズポロフスキーはスーチンやフジタも誘って、気候の良いニースへ行き、暫く共に過ごしました。1918年11月女兒誕生、母親と同じ“ジャンヌ”と名付けられました。1919年5月、モディはサロン・ドートンヌ展へ出展の為パリへ戻りますが病気が悪化、1920年1月に入院して間もなく35才の若さで逝きました。彼の死を伝え聞いたジャンヌは一言も発せず、次の子をお腹に宿しながら、5階から飛び降りて彼の後を追いました、、、。



2016年6月5日迄、

リール市郊外のLaM(Lille métropole musée d' Art moderne)

1, Allée du Musée, 59650 Villeneuve-d' Ascq にて

100余点を展示して開催中の14年振りの回顧展。

毎日11時-18時(月曜日休館)

入場料10ユーロ(12才未満:無料)

www.musee-lam.fr (*J.ベケル監督、ジェラルド・フィリップ主演の映画「モンパルナスの灯」(1958)、ご覧になった方もおありでしょう)(*“腕を広げて横たわる裸婦”(Nu couché les bras ouverts(1917/18))は、昨年ニューヨークで1億7千万USドルで取引されました)

2016年3月12日 Sainte Justine 日の出07時09・日の入18時51 各地の気温:パリ朝夕6°C/日中12°C ニース8/16°C、ストラスブール1/9°C、 “適当と勝手に出来る母の味”(津) 皆様どうぞお元気で(普)